

加古川異業種交流会

恒例のメンバースピーチ
—10月度定例会を開催—

10月17日、10月度定例会が開催され、恒例のメンバースピーチが行われました。このメンバースピーチは「事業所のことを知るだけではなく、メンバーの人生も知ることができ、より深い絆を持つことができる」と好評で、今回は「いちよし証券(株)加古川支店の阿部弘志氏とピュアホワイトの宇仁菅真志氏が自社PRのスピーチを行いました。」

阿部氏は自身の経歴や事業概要、投資を行う上でのポイント等を解説されました。

続く宇仁菅氏は、会社員から転職になり、さらに遺品・生前整理を行う異色の経歴の持ち主で、なぜ、そのような人生を歩もうと思ったのか、また遺品整理に関して大切なものばかりで、なかなか整理が出来ないが、同事業所では住職ならではの供養から整理まで全て一貫して行う事が出来ると説明がありました。

参加者は26名

加古川市環境保全研究会

水銀廃棄物について解説
—リサイクル部会研修会を開催—

10月26日、リサイクル部会の研修会が開催され、行政書士エース環境法務事務所の尾上雅典氏を講師に迎え産業廃棄物処理法の改正や廃棄物の適正処理について解説いただきました。

尾上氏は、この度の法改正では大幅な改正は無く実務的にも影響が少ないとしながらも、水銀廃棄物関連については注意が必要だと述べ、「蛍光灯等の水銀が組み込まれた製品を処理する際は『水銀使用製品産業廃棄物』として処理しなければならぬ。そして、処理委託をする場合も『水銀使用製品産業廃棄物』の取扱い許可を持つ業者へ委託しなければならぬ。またその数などを記さなければいけないなど、今までよりも手間が増えるが、しっかりと守ってほしい」と解説されました。

参加者は23名

水生物多様性保全の必要性を説く
—エコ環境部会研修会を開催—

11月17日、エコ環境部会の研修会が開催され、兵庫県立南但馬自然学校の校長でもあり、兵庫県立大学名誉教授の服部保氏を講師に迎え「生物多様性保全活動について(フジバカマの活動事例)」と題して解説いただきました。

服部氏は「生物界では1980年代後半以降、人間の様々な活動でたくさんの種が絶滅の危機に瀕している。絶滅の主だった要因としては森林破壊や河川改修をはじめ、農薬の使用、里山・草原の放置、温暖化など、陸・水問わず様々だ」と絶滅危惧種が急激に増えていることを述べ、「共生・寄生などの多様な関係性を持つて生きる『生物多様性』の保全は非常に重要で、生物はこのつながりの中で生きており、つながりを失うと生きてはいけない。生物の一員であるヒトもそうだ。たくさん生物を守るということはヒトが生きてゆくために絶対に必要なことという認識を持つてほしい」と熱く語りました。

参加者は18名

青年部

次期会長予定者を選出
—10月臨時総会を開催—

10月19日、10月臨時総会が開催されました。

平成30年度の会長予定者選出が審議され、(株)ツカサ電工の高浜佳司氏が満場一致で選出されました。(任期は平成30年4月1日から1年間)

自社価値の伝え方
—11月例会を開催—

11月9日、11月例会が開催され『モノ余りの時代の「価値の伝え方」〜物売りからコト売りへ〜』をテーマにマーケティングコンサルタントとして1200社以上の実績を持つ松野恵介先生を講師に迎え講演いただきました。

情報が増えすぎた昨今、モノではなく心を満たすコトを最優先するお客様に対して、我々は何をどう伝えるべきかを多くの事例から解説、業種を問わずに活用できる自社のビジネスコミュニケーションツールであるホームページや名刺にキャッチコピーを載せるなど、

加古川市環境保全研究会

水銀廃棄物について解説
—リサイクル部会研修会を開催—

10月26日、リサイクル部会の研修会が開催され、行政書士エース環境法務事務所の尾上雅典氏を講師に迎え産業廃棄物処理法の改正や廃棄物の適正処理について解説いただきました。

尾上氏は、この度の法改正では大幅な改正は無く実務的にも影響が少ないとしながらも、水銀廃棄物関連については注意が必要だと述べ、「蛍光灯等の水銀が組み込まれた製品を処理する際は『水銀使用製品産業廃棄物』として処理しなければならぬ。そして、処理委託をする場合も『水銀使用製品産業廃棄物』の取扱い許可を持つ業者へ委託しなければならぬ。またその数などを記さなければいけないなど、今までよりも手間が増えるが、しっかりと守ってほしい」と解説されました。

参加者は23名

水生物多様性保全の必要性を説く
—エコ環境部会研修会を開催—

11月17日、エコ環境部会の研修会が開催され、兵庫県立南但馬自然学校の校長でもあり、兵庫県立大学名誉教授の服部保氏を講師に迎え「生物多様性保全活動について(フジバカマの活動事例)」と題して解説いただきました。

服部氏は「生物界では1980年代後半以降、人間の様々な活動でたくさんの種が絶滅の危機に瀕している。絶滅の主だった要因としては森林破壊や河川改修をはじめ、農薬の使用、里山・草原の放置、温暖化など、陸・水問わず様々だ」と絶滅危惧種が急激に増えていることを述べ、「共生・寄生などの多様な関係性を持つて生きる『生物多様性』の保全は非常に重要で、生物はこのつながりの中で生きており、つながりを失うと生きてはいけない。生物の一員であるヒトもそうだ。たくさん生物を守るということはヒトが生きてゆくために絶対に必要なことという認識を持つてほしい」と熱く語りました。

参加者は18名

具体的方法を学びました。
例会後は松野先生を囲んで懇親会を行いました。先生の周りには列ができ、皆自社の魅力の伝え方などを相談し、講演では聞くことのできなかつた個別のアドバイスをしていたことができました。今回の例会では、私達が「自社のどんなことがどんなお客様にどのように役に立つのか」ということを改めて気づく機会となりました。参加したメンバーにはぜひ、実践してほしいと思います。(青年部広報委員会副委員長 西山明子)



定例会の様子

ナイスショット!の声響く
—会頭杯ゴルフコンペを開催—

10月26日、第28回会頭杯ゴルフコンペが城山ゴルフ倶楽部にて開催されました。

当日は快晴の空の下、釜谷会頭をはじめ、青年部OBメンバー・現役メンバー総勢34名の参加となりました。

このコンペは、会頭と現役メンバー、そしてOBが共に汗を流しながら、交流を深めようと毎年開催されています。参加したメンバーは、スコアの良し悪しもあり奮闘しながらも、終始和やかなムードで笑顔あふれるコンペとなりました。



優勝カップを手に笑顔の釜谷会頭(右)

また、ゴルフ終了後には、青年部メンバーの永野華苗さんの「かき庄」において表彰式を兼ねた懇親会が開催され、懇親会から参加される方も多くいるなか、優勝された釜谷会頭には、大きな拍手が送られました。

現役メンバーは普段なかなか機会がない、たくさんOBの方々とお話しすることができて、本当に有意義な時間を過ごすことが出来たように思います。有難うございました。

来年度もこの会でより一層の交流を深め、青年部メンバーの信頼関係を築いていくために盛り上げていきたいと思えます。(青年部広報委員会副委員長 岩下泰広)

新規会員募集中!

がんばる企業をバックアップ
経営の「困った」は商工会議所へ相談を



お知り合いの方で、興味のある方がいらっしゃいましたらご紹介ください。
すぐにご説明に伺います。
ご入会に関するお問い合わせは
TEL079-424-3355まで